

【伝教大師最澄1200年魅力交流委員会設立会】開催報告

③

令和元年5月24日（金）、ザ・サウザンドキョウト「花鳥」にて、滋賀県知事・大津市長や京都府知事・京都市長をはじめ、様々な専門分野の方々・計18名の委員会構成員が集い「伝教大師最澄1200年魅力交流委員会設立会」を開催し、「伝教大師最澄1200年魅力交流委員会」を発足いたしました。

幹事、委員長による挨拶から始まり、大学コラボプロジェクトの参加大学生10名による取組紹介や、副委員長・各委員からのご意見等お伺いしました。最後に、委員長により、各委員のご発言やご意見の取りまとめを頂き、設立表明を行いました。幹事による総括では、「最初に学生さんのフレッシュな思いを發表いただき、そして委員の一人一人様から、本当に刺激のあるお言葉を頂きまして魅力を感じました。立命館大学、龍谷大学の学生さん、本当にありがとうございます。」と、感謝の気持ちを以て締めくくりといたしました。



◆以下、伝教大師最澄1200年魅力交流委員会委員長 鳥井 信吾 ご意見～設立表明 抜粋

委員の皆さま方から頂戴しましたご意見感謝申し上げます。

大学生の皆さんからは、『「一隅を照らす」という言葉が本物の言葉と感じたことが機会となった。人々への興味や言葉の重要性から新しい価値観を形成したい。また、若い人たちが日本の文化や古美術に対して興味を失っているということに大変危機感がある。人とのつながりが、また日本文化を広げていく。理論のみならず、実際の活動への思いというのが、本物に触れることが重要である。触れていきたい』とのご意見を頂きました。

委員の皆さんからは、『滋賀県や京都の産業商工業含めて、教えと関わるということが、ソフトとハードの融合ということを考えたい。』『官公庁、民間、若い人の意見が3者一緒になって次の世代を作っていく。』『比叡山への来訪者をもっと増やしていく施策を考えたい。』『最澄の教えはSDGsとも同じことではないだろうか』とのご意見がありました。

そして、『宝を見つけ、宝探しをしていこう』と、『それは若い人の目で見つけてほしい。比叡山の新緑に触れて、比叡山のお堂を巡ること、行く度に新しい発見、新しい、知らないことを知ることが出来る。』『委員会から学生と積極的に触れ合い、話し合っていくことが重要である。』『リーダーシップを育むことが重要。』『比叡山という1つの鎌倉の祖師たちを生んだ母体である比叡山というところに我々はいるといふことの優位性を考えながら、リーダーシップを育んでいきたい。』そして、日本の伝統、お茶のお話や生け花のお話も頂戴しました。これも伝統文化というものと、非常に古い日本の仏教ということが実は関係をしていて、日本文化が繋がっているのだということ等々たくさんのご意見をいただきました。

皆さんのお話を伺っておりますと、1200年の時空を超えた伝教大師の言葉そのものかもしれないという感想を持ちました。

【設立会・開催概要】

- 開催日時：令和元年5月24日（金）午前9時00分～午前10時30分
- 開催場所：ザ・サウザンドキョウト「花鳥」
- ご出席者：43名（委員及びオブザーバー随行者様のぞく）
- 次 第：
 - 1、開会
 - 2、挨拶
 - 伝教大師最澄1200年魅力交流委員会 幹事 杜多 道雄
 - (天台宗 宗務総長 祖師先徳鑽仰大法会事務局 局長)
 - 3、出席者紹介
 - 4、委員長挨拶
 - サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副会長 鳥井 信吾
 - 5、取組紹介
 - 映像
 - 大学生代表3名の発言
 - 6、委員会についてのご意見（副委員長）
 - 滋賀県知事 三日月 大造
 - 京阪ホールディングス株式会社 代表取締役社長 加藤 好文
 - 7、各委員からのご意見
 - 8、ご意見～設立表明
 - 伝教大師最澄1200年魅力交流委員会 委員長 鳥井 信吾
 - 伝教大師最澄1200年魅力交流委員会 幹事 小堀 光實
 - (比叡山延暦寺 代表役員執行 祖師先徳鑽仰大法会事務局 奉行)
 - 9、総括
 - 10、閉会